

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども支援室 えがお		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置の充実が、児童や保護者の安心につながっていると感じる。	1対1配置にはこだわっている。加配が行動を促したり、承認したり個別で行う。 対人関係の面でも介入しやすい。 利用年数によって、支援の量(1対1)を減らし、自分でできた時にフィードバックし評価	行動が般化できていない場合は支援内容を共通にする。 (家では・・・園では・・・の声をよく聞くため)
2	児童のみではなく、保護者に寄り添い、ご家庭での困り感にたいし、一緒に考えていく姿勢が持っている。	自宅や園での困り感には保護者に対して丁寧に対応していく。 保護者の声には即対応、関係機関につなげたり訪問する。	関係機関との連携強化 保育所等訪問事業や、相談を充実する。 相談に乗れる職員の育成
3	駅に近く商業施設、公園、図書館、施設が身近に利用できる。	1対1のスタッフ配置なので道路の歩き方や、信号、公共の場でのルールを学ぶ。 市の子どもの施設に行くことでスタッフに知ってもらえる。またご家族で行かれた時のサポートにつながっている。	引き続き利用していく。 家族で施設を利用していくことができるようになるとうい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園への移行が進みにくい	園という大きな集団への力が付いたとしても、継続児童が多い、また園からも継続を進められる	移行にあたっての不安を保護者は抱えるため、保育所等など同行できることを考え移行のステップを考える。
2	身体に障害を抱える利用時に対してバリアフリーになっていない。	スロープが必要な児童はいないが、歩行が難しい児童等に手すりの設置など、設備の充実	理学、作業療法士等が雇用できることで専門的な支援内容を計画できる。 補助具等を使うことで、児童のできる1!が増える
3	勤務時間の違いにより、全員参加や決定事項の周知が難しい	時間を作る、保護者にお迎えをお願いするなどして時間を作る	スケジュールの早めの決定 ZOOMを使つてのリモート会議を設定してみる。